

■ VISTA 8 ユーザーレポート

株式会社テレビ静岡様

VISTA 8



制作サブに VISTA 8 を導入



株式会社テレビ静岡
映像局 映像制作部
竹尾 直己

「シンプルに美しく安全に」

この度、14年ぶりに制作サブを更新しました。当社では、情報番組、スポーツ番組などの生放送、各種収録等の用途に制作サブを使用しています。14年の間にさまざまな機器の追加や変更等があり、それらは必要に迫られてのことだったとはいえ、結果的に音声卓まわりが大変乱雑な状態となっており、また耐震面にも不安がありました。そういった環境から脱却したい、なるべくシンプルに美しく、とにかくすっきりとした環境を作ることにこだわりました。無機的で厳つい箱に囲まれて仕事はしたくない、ここに座ると落ち着く、そんな音声エリアを目指しました。また、マシナールームに納まらない映像系（例えばVTRラック）の冷却ファンを直列に接続変更してもらい、メカノイズの発生をなるべく小さくする様な努力もしています。もちろん「安全性」にもこだわり、電源の二重化はもちろん、万が一の際はボタン一つでEMGミキサーに乗り換え可能なシステムを構築しました。

コンパクトであること

VISTAはなんと言ってもデスクのデザインが良かったです。デザインが良いことはとても重要だと思います。造形的に美しいものや気に入ったものは多少の不機嫌も許してしまうからです。この世の中、見た目は悪いけど完璧ですというものはないですから（笑）。それだけでなく、現実的な問題としては「コンパクトであること」が最も重要でした。当社のサブは非常に狭いので、音声卓の設置についてもmm単位の位置調整が必要でした。それ位の事をしないとモニタースピーカーが物理的に納まらなかったのです。映像モニターにマルチビュータイプを選択したのも、省スペースであることが第一の理由です（第二の理由は低予算である点ですが）。また、音声システムに割り当てられたマシナールームのラックが、インカムも含めて2本しかなかったため、その範囲内でシステムを納める必要があり、その点でもVISTAは合格でした。

マイク回線に Wirlwind ケーブルを採用

今回の更新ではフロアからのマイクケーブルも新しくしました。今まで使用していたマルチケーブルはコネクタの所で共通アースになっていて、マイクラインに飛び込む不要なクロストークやノイズに悩まされていました。そのため、各チャンネ

ル単独アースで、かつ造りが頑丈でコネクタの脱着も簡単なWirlwind製のマルチケーブルを使用することにしました。これにより、日常の使い勝手と音質を改善できましたし、原因不明のノイズも一切なくなりました。

実際に使ってみて

VISTAにはまったく不満はありません。導入から現在まで、我々が使いやすい様に度々フェーダーの並びや細かいセッティングの変更をしてきました。その結果、非常に分かりやすいデザインになったと思います。実際、簡単な音出しの場合、音声担当以外の人でも普通に電源を入れてオペレートして、ちゃんとシャットダウンまでしてもらっています。

